

第 1 7 2 回
沖縄地方交通審議会
船員部会 議事録

令和 5 年 4 月 2 0 日（木）

沖 縄 総 合 事 務 局

第 1 7 2 回 沖 縄 地 方 交 通 審 議 会 船 員 部 会

日 時 令和 5 年 4 月 2 0 日 (木) 1 1 時 0 0 分
場 所 沖 縄 総 合 事 務 局 2 階 「 共 用 会 議 室 D 」

出 席 者 :

公 益 委 員	上 原 委 員、赤 嶺 委 員、豊 川 委 員、大 城 委 員
労 働 者 委 員	漢 那 委 員、柴 田 委 員、島 仲 委 員
使 用 者 委 員	桃 原 委 員、亀 谷 委 員、角 委 員

沖 縄 総 合 事 務 局 野 原 船 舶 船 員 課 長、
比 屋 根 課 長 補 佐、金 城 係 員

議 事 次 第

○ 開 会

○ 議 事

1. 第 1 7 1 回 船 員 部 会 の 議 事 録 承 認 に つ い て
2. 管 内 の 雇 用 状 況 に つ い て
3. 意 見 交 換

○ 閉 会

(配 付 資 料)

- 資 料 1. 第 1 7 1 回 船 員 部 会 の 議 事 録 (案)
- 資 料 2. 船 員 職 業 紹 介 実 績 等 一 覧 表 (令 和 5 年 3 月 分)
- 資 料 3. 令 和 4 年 度 卒 業 者 進 路 状 況 一 覧 表
- 資 料 4. 海 の ハ ロ ー ワ ー ク ネ ッ ト (海 事 局 リ ー フ レ ッ ト)

上原部会長

皆様、こんにちは。それでは、定刻となりましたので 172 回の船員部会を始めさせていただきます。

まず初めに、本日の出席状況と配付資料の確認をお願いいたします。

事務局（金城）

本日は公益委員 4 名、労働者委員 3 名、使用者委員 3 名が出席されており、船員部会運営規則第 9 条の規定により定足数を満たし、本部会が有効に成立していることを御報告いたします。

なお、4 月の人事異動で事務局の職員に変更がありましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

初めに、船舶船員課長、野原から紹介をお願いします。

事務局（野原課長）

それでは、4 月 1 日付で人事異動がございましたので、私から改めて紹介させていただきます。

本日は欠席ですが、海事振興・防災危機管理調整官の山口と、船舶船員課の比屋根は引き続き残留でございます。

船員部会事務局は 4 月に金城と私、野原が新たに着任いたしましたのでよろしくをお願いいたします。私は平成 27 年度と令和 3 年度に本部会に携わっておりましたが、改めて、委員の皆様の御協力を得て部会の円滑な運営に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局（金城）

ありがとうございます。

私も軽くですが自己紹介をさせていただきます。4月1日より労政・職安係に着任いたしました金城と申します。海上に関わる業務については約2年ぶりとなりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。皆様の手元に議事次第の中にも配付資料については一覧をお書きさせていただいているのですが、今回配付資料を4つ御準備しております。

まず、資料1として、前回実施の第171回船員部会の議事録（案）がございます。次に、資料2としまして、令和5年3月分の船員職業紹介実績等一覧表がございます。次に、資料3としまして、令和4年度の卒業者進路状況一覧表というものがございます。最後に、資料4としましては、海のハローワークネットについての国土交通省海事局からのリーフレットがございます。

以上が、今回の配付資料となります。

上原部会長

はい、ありがとうございます。

それでは、まず初めに前回、第171回の議事録の承認についてお諮りしたいと思います。前もってメールでお送りしていますけれども、何か修正等の御意見おありですか。

よろしいでしょうか。

（「異議なし」）の声

上原部会長 それでは、原案どおり承認してよろしいということでさせていただきます。ありがとうございました。

続いて、議事の２番、管内の雇用状況について事務局から説明をお願いいたします。

事務局（比屋根補佐）

令和５年３月分の管内雇用状況等の概要について御報告いたします。

●求人状況について

新規求人数は３件でした。

前月に比べ１件減少、また、前年同月に比べ７件減少となっております。

月間有効求人数は４０件でした。

前月に比べ、１件の減少、前年同月に比べ１８件増加となっております。

月間有効求人数の内訳は、商船等４０件となっております。

月末未済求人数は３７件でした。

●求職状況について

新規求職数は８名でした。

前月に比べ３名増加、また、前年同月と比べ４名減少となっております。

新規求職数の内訳は、商船等８名となっております。

●新規求職者の退職理由又は求職理由別内訳について

３月の新規求職者８名の退職理由は、自己都合が１名、定年・期間満了が２名、海上勤務中の現職が５名となっております。

新規求職者が所属していた会社所在地は、管外が３名、管内が２名となっております。

●求職状況について

月間有効求職数は１６名でした。

前月と比べ５名減少、また、前年同月と比べ１名減少となっております。

月間有効求職数の内訳は、商船等１５名、漁船１名となっております。

月末未済求職数は１０名でした。

●成立状況について

３月の成立は１件でした。

●求人倍率について

3月の月間有効求人倍率は、2.50倍でした。

前月に比べ0.55ポイント増加、前年同月に比べ1.21ポイント増加となっております。

●失業等給付支給内訳について

基本手当受給者実人員は2名、支給延べ件数は2件です。

基本手当支給額は、188,742円でした。

その他、就業手当が38,997円、総支給額は227,739円でした。

以上、管内雇用等状況の概要の説明を終わります。

上原部会長

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明について何か質問等がありますか。

よろしいでしょうか。

(「はい」)の声

上原部会長

ありがとうございます。

特にないようですので、次に参ります。議事の3番、意見交換に移りたいと思いますが、何か意見のある方いらっしゃいますか。角委員、何かご意見ございますか。

角委員

船員部会とは直接関係ないかもしれませんが、4月8日に台湾情勢が急に悪化した際に当社の台湾に向かう船が石垣港に待機することがありました。そのような状況下では船員の安全を優先して対応するのですが、あのとき2つほど気になったことがあり、1点目は各社のこのような有事の際の対応にばらつきがあったこと、2点目は私自身のことですがその当時ちょうど

飛行機に乗る寸前に連絡が入ってきたので、ちょっとこれは止めましょうというような形で止めたのですが、その時他に頼るような情報というのがなかったということ。こういった点については前回の話でもあったのですが、総合事務局さんでこのような有事の情勢などについて、情報の収集やそれを踏まえての各社への御指導みたいなものというのをいただけないものかなということを感じました。

漢那委員

私からも関連でいいですか。この台湾情勢ですけども、本件について私も気になっていて国会議員に国土交通省の委員会の中で台湾海峡について、この台湾の中国に対する演習についていろいろ意見を言ってくださいとお願いしている経緯もあります。台湾周辺で中国が演習をするとき海上保安庁はどのように対応しているのか確認したところ、その演習する国からどこで演習しますよという連絡が来て、それから船舶に対して海上航行警報を出すといった対応をとられているようなが、中国については演習をしますという情報は日本に一度も来ていないのということが現状です。角委員が言うように、会社のほうは独自で情報を取りながらそれで8日の日は抜港していると、出航させてないという状況なのですが、台湾航路はソマリア沖の海賊問題とかの兼ね合いで自衛隊が守っているような航路ではないので本来であればあの航路はハイリスクエリアには該当しないかと思います。そのような認識もありながら、この地で中国が演習をするといった緊迫した状況下、民間船の船員さんがこの台湾の高雄まで行くわけですよ。普通であれば台湾海峡を渡るのですが、このような危険な情勢であることから迂回して太平洋側から行くのかどうするのか、もう判断も迷ってしまうぐらい危険地帯を走っているということです。ただそのような状況で総合事務局というか国というか県と

いうか、全く介入してきていないのが現状問題かと感じています。事故があつてからしか介入しないのかなと考えたらあまりにも無責任じゃないかなと思っているので、さきほど角委員が話されたように、台湾海峡でのこういう演習がある場合、沖縄県出身の沖縄の会社の船員さんがここを運行しているわけですからこの安全をどのように考えるのか、保安庁と連携を取ってぜひとも情報や各社に対し行かないようにしてくださいという指導をやってもらいたいです。その辺できるかどうかも含めて総合事務局から見解をお聞かせいただきたいと思いますのですけれどもいかがでしょうか。

事務局（比屋根補佐）

台湾情勢については今までもいろいろお話があつたのですけれども、申し訳ございませんが一度本件については預からせていただいてもよろしいでしょうか。国としての見解、総合事務局として何ができるのかという部分も含めて、また本省とか東京だけのお話ではなくて総合事務局としても何か独自に連携が取れるのかというところも踏まえて、今日あつたお話をお伝えして、次回以降の部会で何かしら回答できるような形を取りたいと思いますので、お手数ですけれどもよろしくお願いします。

上原部会長

ちょっと質問ですけれども、これ荷物、船がストップしますよね。荷主との関係では損害賠償とかならない、届けられなかったという、そういうのはないですか。

角委員

そういうことはなかったですね。当然ですけれどもそのお客さんには事前

にこういう状況ですので止まりますと言って、その話は報告いたしております。

漢那委員

もう1つよろしいでしょうか。この航路は定期航路を走っている船だけではなく、漁船もあの近海は走っているわけですね。だから漁船の場合はVHFを持っているのか、AISも19トン以上は義務化されていないため持っていないかと思えますし、そのような連絡手段というのも19トンのマグロ船がどこまで機材を持ってやっているのかということも気にすべきことかと思えます。漁協の無線をするぐらいの連絡設備を有していない漁船については、有事の際巻き添えを食らったとしても誰も知らないままになる可能性もあるので、その辺も含めてやっぱり安全運航ができる安全な海をつくるというのは、総合事務局としてもいろんな工夫をしながら民間とも協力しながらやっていただきたいと思っているので、よろしく願いしたいと思えます。

上原部会長

ありがとうございます。

そのほか何か御意見のある方はいらっしゃいますか。

柴田委員、何かないですか。

柴田委員

いや、そのとおりだと思います。1つだけ言えるのであれば、同じ話なのですけれども、一部の会社は今回船を止めましたと、別の他社は通常どおり動きましたと、情勢的には同じ状況下で各社の判断で動くか動かないかというのを今回は判断したという、これからもそういう話になってくると思うの

ですけれども、ただそういうのはちょっと僕ら一船員の代表としては非常にいかなものかと思えますし、安全を考慮したところが例えば利益を落とすと、そういう面で、それは果たして本当にいいのだろうかというところが、国としてもしっかり安全を考慮して、止めた会社さんを僕は非常に評価が高いと思っていますし、その運行に従った判断というのを果たして運行した会社に対して全責任を国が全部押しつけるのもそれもどうかと思うので、しっかりした基準を持ちながら、海上保安庁とはちゃんといろんな連携を取りながら総合事務局も対応するべきじゃないかなと僕は思っているところではありますね。

上原 部会長

はい、ありがとうございます。

そのほか何かありますか。

よろしいでしょうか。

はい、貴重な意見をありがとうございました。

それでは、その他の添付資料の説明を事務局からお願いいたします。

事務局（金城）

事務局から、資料 3 及び資料 4 について、続けて御説明させていただきます。

まず、資料 3 を御覧ください。

こちらは、卒業者進路状況一覧表というものになっております。こちらについては、沖縄水産高校と宮古総合実業高校の卒業生の進路状況となります。学校の協力をいただきまして、令和 4 年度に卒業の生徒の海上に関係する就職・進学状況を一覧表にして記載しております。

その中でも、気になったことについて紹介させていただきます。沖縄水産高校での令和4年度の卒業生進路状況一覧表を見ていただきたいと思いますのだけれども、左側の記載に沖縄水産高校の生徒が所属する学科名が記載されているかと思います。その中でも「専攻科」におかれましては、漁業科、機関科、無線通信科に細分化されております。この3つの科いずれかに所属する生徒の就職先を見ますと、漁業科と機関科の生徒におかれましては海上関係の職業に就職が決定していることが表から見て分かるかと思うのですが、無線通信科の生徒におかれましては、海上関係の就職は1人もおらず、逆に陸上関係の職業に就職していることがこの表から見てとれます。

このことについて沖縄水産高校の担当者の方に確認してみたところ、無線通信科の生徒にとってNTTやKDDI、また航空会社や警察の無線関連職種がとても人気らしく、このような陸上での無線関連の会社に就職することを目標にこの科に入学してくる生徒もいるそうです。そのためそもそもの目標が陸上関係の就職ということもあって、海上関係の就職がないという現状があると伺いました。

続きまして、そのまま資料4についても御説明させていただきます。

資料4につきましては、こちら国土交通省海事局より発表された海のハローワークネットのリーフレットになります。

「海のハローワークネット」とは、国土交通省が運営するインターネットを通じた船員に特化した求人・求職サイトになります。これまでの流れとしまして、求人者及び求職者は、原則として当局を含む船員の職業紹介窓口に来ていただいて、求人票、求職票を提出する取扱いとしていたところ、先月3月1日より本システム、「海のハローワークネット」の導入により、パソコンやスマートフォンを用いた申請が可能になりました。これにより、求人者及び求職者はいつでも求人求職情報をスマートフォンでしたり、パソコン

などから検索・閲覧できるようになったことで、利用者にとっては利便性が向上し、当局などの船員職業窓口の担当におかれましては窓口業務の効率化を図れるといったことが本システムを通しての期待点となっております。また、これまで船員の求人サイトとして利用されておりましたSEC0J運営の「船員求人情報ネット」、こちらが3月末で終了したことも併せて海のハローワークネットには今後船員に係る円滑な求人求職活動のツールとして期待されている部分がございます。

以上が説明となります。

上原 部会長

はい、ありがとうございます。

ただいまの資料説明について何か質問等はございますか。

漢那 委員

よろしいでしょうか。専攻科の定員についてですが、我々ずっと教育委員会にも県にも話をしているのですけれども、漁業科と機関科は定員が10名で通信科だけ15名、去年か一昨年あたりに実習船を新造して大型化しております。定員数も増やしておりますので、これだけ船員さんの就職率がいい中で今後少子高齢化の中で船員不足が顕著化してきておりますので、総合事務局としてもやはり船員育成するのは沖縄水産高校しかないわけですから、海技免状を取得するというのはもう船の船舶職員というのは一長一短ではできない職業です。車の免許みたいに免許あるから明日から船長できるという世界ではないので、この10名枠をせめて通信科と同じように15名ずつにするとか、総合事務局からも働きかけてもらえないですかね。その辺の観点から、県外に就職しているのがほとんどで数名だけ沖縄県で就職してい

るというのが実情ではあるのですけれども、その方々も将来的には戻ってくる可能性もあるので。やはり船員さんがいないと沖縄県は日本で2番目に離島が多いわけですから、やっぱり必要枠だと思っておりますので減らさないようにむしろ増やすようにして。卒業生を見ても漁業科が3名減っていますよね。機関科が1人減っていますよね。これは退学しているわけですよね。辞めているということになるので、そうすると15名ぐらいいたらちょうど10名ずつぐらいにはなるのかなと思ったりもするのですけれども、そういうふうにして外部にも県にも働きかけていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

上原 部会長

はい、ありがとうございます。

専攻科はレベル高いですもんね。高校を卒業して2年間でしたかね。

漢那 委員

レベルは高いですし、すぐ船舶職員で乗るので、就職先のなかでも一番漁船が給料も高いかと思います。去年か一昨年ぐらいの遠洋まき網漁船は年収で5千万ぐらい給料をもらいますからね。それを考えてもやはりそういう人は沖縄県でいるだけで税金を払うわけですから、船員育成にかかるコストについてももうさほど高くないのかと思います。

上原 部会長

ちなみに、那覇空港の管制官の半数は専攻科です。

漢那 委員

種子島宇宙開発に行ったり、管制官に行ったり、もう通信科はそういう就職口しかないですね。NTTだって。前は海上保安庁もあったのですが、海上保安庁は船に乗らないと給料が安いことや危険だからという点で就職しないのかと思います。

上原 部会長

はい、ありがとうございます。

そのほか何かありますか。

よろしいでしょうか。

ほかにはないようであれば、事務局から連絡がありますのでよろしくお願いいたします。

事務局（金城）

皆様に船員部会の開催について御提案がございます。

現在、開催の通知につきまして、皆様宛てに個別郵送で通知書を送らせていただいているかと思うのですが、こちらを経費節減と業務の効率化ということも踏まえて、メールで今後は送付できたらと考えております。それに対して皆様から御意見等があればいただきたいです。

豊川 委員

私はメールでの通知で問題ないです。

上原 部会長

皆さん、メールを使っていますし、私のほうでも紙での通知は要らないかなと思います。

漢那委員

私もいいと思います。ただ九州などではまだ紙での通知だったかと思いますが。

上原部会長

じゃあ、時代の流れを先に行くということで。まずはやってみましょうか。

豊川委員

資料についても今後メールというか、紙出ししていただかなくても各自パソコンを持参して資料を確認するといった対応にしてもいいかもしれませんね。

上原部会長

そうですね。そのことも検討して総合事務局には対応していただければと思います。では、まず次回より通知からメールでの対応ということでよろしいでしょうか。

（「はい」）の声

上原部会長

はい、分かりました。それでは、メールでの開催通知に了承が得られたということで進めさせていただきます。また、事務局から説明をお願いします。

事務局（金城）

次回の船員部会についてお知らせさせていただきます。次回、5月の船員部会につきましては、5月18日の木曜日、当局2階共用会議室DとEで11時より開催させていただきます。開催の通知につきましても、先ほど皆様より御了承いただきましたとおり、メールにて試験的に案内文を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、出席できない場合は、事前に事務局まで御連絡等いただければと思います。

また、今回の議事録案につきましては、後日、皆様宛てにメールで照会させていただきますのでよろしくお願いいたします。

上原部会長

はい、ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、本日の部会を終了させていただきます。

ありがとうございました。